

第3章 北見市の生涯学習

1.生涯学習の現状

北見市における社会経済状況は、少子化の進行により人口が減少し、それに伴う高齢化が急速に進展するなか、地域経済は長期的に停滞しており、雇用環境は企業間・地域間において格差が生じております。他都市に比べ非正規雇用の割合が突出しており、特に若年労働者の雇用状況は不安定なことから、若者の勤労観・職業観の希薄化や社会人・職業人としての基礎的な資質をめぐる課題、高い早期離職率などの就労問題を引き起こしております。

また、教育をめぐっては、子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、家庭や地域の教育力の低下などが指摘されており、また、近年の地震や気象変動等の自然災害から子どもを守るための施設整備や、子どもが自ら安全な行動をとれるようにするための必要な知識など、子どもの安全確保及び学校の安全管理に努めていくことが求められております。

これまでの生涯学習は、趣味教養や社会参加のための学習を通じての生きがいや心の豊かさの実現を重視する傾向にありましたが、このような状況を踏まえ、今後においては、職業生活の充実を通じた自己実現や経済的に安心できる生活基盤が不可欠であるとともに、ボランティア活動・スポーツ活動・芸術文化活動など多様化する市民ニーズに対応した生涯学習環境の整備が必要となっております。

さらに、いわゆる団塊の世代の退職の時期を迎え、地域における受け皿づくりや、能力を継承し、地域活動や市民活動の中に生かすことができるように、出前講座「ミント宅配便」(市民編)のメニュー拡充や新しい講師の発掘など、地域での活躍の場の提供についても検討する必要があります。

市民意識調査概要

調査期間	平成19年6月1日～6月14日
調査対象	18歳以上の一般市民
調査方法	郵送調査
サンプル数	配布数 4,900枚 回収数 1,946枚(39.7%)
回答者構成	男性 813(41.8%)
	女性 1,133(58.2%)
	30歳未満 178(9.1%)
	30代 268(13.8%)
	40代 318(16.3%)
	50代 428(22.0%)
	60代 419(21.5%)
70歳以上 335(17.2%)	

2.生涯学習に関する市民の意識

平成19年6月、無作為抽出による市民4,900人を対象に「市民の生涯学習に関する意識調査」を実施しました。

生涯学習の必要性に関する項目では、「おおいに必要」と「必要」を合わせると87.8%となり、性別・年代別に係わらず約9割の人が生涯学習の必要性を感じております。

必要だと答えた人の中では、「生活の潤いと

充実感」「知識・教養の向上」などが上位を占めております。

調査の結果から、生涯学習は高齢化や自由時間の増大に伴い、心の豊かさや生きがいを求める傾向を示しており、市民講座での学習、芸術文化活動、スポーツ活動などのほか、地域活動、レクリエーション活動の中で、自己の人的価値や生きがいの追求を求めていることが伺えます。

学習内容では、「趣味やけいごと」の占める割合が37.3%と最も高く、次いで「スポーツやレクリエーション」「職業上の知識・技能」の順になっております。

年代別では、20歳代・30歳代・40歳代で「職業上の知識・技能」、50歳代で「学術や教養」、60歳代以上で「趣味やけいごと」が特に高い傾向にあります。

若い世代における「職業上の知識・技能」の希望が高いことから、個人の職業能力や資格取得に関する学習ニーズに対する学習内容を充実させ、多様な学習の場の充実を図る必要があります。

